

## 重量物の運搬作業等に係るヒアリング結果の概要

	重量物の運搬等身体への負荷の大きな業務の概要	機械化の進展、作業内容の変化等	女性労働者、妊産婦の就業状況	母性への悪影響の発生状況
引越し事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般にダンボールは、重いものでも1個20kg程度。殆どの場合、顧客が荷詰めする。</li> <li>・代表的な重い荷は家具や家電製品。これらは複数の労働者で運ばれる。</li> <li>・荷の搬出、搬入はそれぞれ通常半日程度。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合住宅ではエレベータで荷を昇降させるが、戸建て、エレベーターの無い集合住宅等においては人力による。(ハシゴ式の荷揚げ機が使用できる建物は少ない)</li> <li>・梱包資材は変化しているが、重量物運搬等に係る作業環境について、近年大きな変化はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性労働者が荷の搬送に従事することは少なく、多くの場合、荷詰め作業等に女性が就いている。</li> <li>・多くの場合、妊産婦はもとより、女性労働者に20kgを超えるものを運搬させることはない。</li> <li>・都市部では、3、4月の繁忙期に若い女性がアルバイトとして引越し業務に就くこともある。</li> <li>・女性客向けの女性スタッフ限定サービスには女性が従事している。この場合、女性労働者も20kgを超える荷を取扱うことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性労働者の子宮脱、子宮下垂、切迫早産、切迫流産等の発生の有無は確認されていない</li> </ul>
スーパーマーケット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・店舗では長時間の立ち作業が行われている。レジ打ちを含め、座って行う作業は殆どない。</li> <li>・納品された商品は積み下ろし場で受けとり、台車で売り場まで運ばれる。店員はこれらを棚に陳列する際に、商品を持ち上げる。</li> <li>・店員が取り扱う荷は、最も重いものでも20kg以下(紙パック牛乳のケース)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荷は、トラックから荷降ろしされた後店内まで、台車で運搬。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母健連絡カード等で主治医から長時間の立ち仕事への制限があった場合、座ってできる作業は店舗にはないため、自宅静養させている。</li> <li>・女性正社員のほとんどは育児休業を経て継続就業している。</li> <li>・女性のパートは20才前後と4、50台をピークにし、20代前半～30代前半を底にしたM字カーブ。</li> <li>・パートは各店舗の採用。パート労働者の育休取得実績は極く僅か。妊娠を機に辞めるケースが多い。退職後の復帰も見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性労働者の子宮脱、子宮下垂は聞いたことがないが、切迫早産、切迫流産等は発生している。</li> </ul>
コンビニエンスストア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荷の運搬、長時間の立ち作業を含む多様な業務が行われている。</li> <li>・運送部門から納品された商品は店内の所定の位置に置かれ、店員はこれらを検品し棚に陳列する作業を行う。</li> <li>・店員が取り扱う荷は、最も重いものでも20kg以下(2Lペットボトル8本入りケース)</li> <li>・冷蔵室(6℃前後)に立ち入って陳列を行う。</li> <li>・代表的な勤務時間は6～8時間。休憩時間を除けば、通常は立ち歩いて業務を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重量物運搬作業等に係る作業内容、作業環境については特に変化なし。(検品、陳列、レジ、伝票整理、清掃など多様な業務を行っている)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・殆どの店舗がフランチャイズであり、請負主に15人～20人のアルバイトが雇用されている。</li> <li>・都心部は若い女性の学生アルバイト・フリーター等が多く、郊外店では中高年の主婦等が多い傾向がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性労働者の子宮脱、子宮下垂、切迫早産、切迫流産等の発生の有無は確認されていない</li> </ul>
介護施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子からベッドへの移乗、入浴等の介助作業等が人力のみにより行われている。</li> <li>・介護労働者への身体負荷は介護職の技能により増減するが、一般に労働者への身体的な負担は大きい。</li> <li>・介護対象者の状況に応じ、複数の介助職による介助が行われている。</li> <li>・食事介助、業務記録等の一部の作業を除けば、通常は立ち歩いて業務を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助機器について、スライディングボードは普及しているが、電動リフト等の利用は普及していない。</li> <li>・介助法(ボディ・メカニクス)の技術が進歩し続けており、資格者等への再教育、定期的な実技研修等により、介護者の身体的負担を小さくする取組みが進められている。</li> <li>・腰痛予防ベルトの着用が普及している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職の半分以上が女性労働者である。そのうち40歳未満の女性が5割～8割を占める。</li> <li>・妊娠を職場に報告した女性は移乗介助・入浴介助に就けず、食事介助、記録等のみに就けている施設がある。他方、本人からの申し出がない限り、母性保護上の措置を特に講じていない施設もある。</li> <li>・以前は、妊娠した女性介護職の多くが退職していたが、近年は育児休業のあと復職している者が増えつつある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性労働者の子宮脱、子宮下垂、切迫早産、切迫流産等の発生の有無は確認されていない</li> </ul>